

令和5年「市民と議会のわがまちトーク」報告書

総務消防委員会

開催日時	令和5年4月22日(土) 午後1時30分から3時まで
開催場所	中総合会館 4階 ホール
テーマ	人口減少を止めるには ～移住・定住の促進について～
参加市民	21人
出席議員	担当委員会：総務消防委員会 西村正之、尾関善之、小西洋一、仲井玲子、松田弘幸、山本治兵衛 サポート委員会：市民文教委員会 野瀬貴則、伊田悦子、杉島久敏、谷川眞司、田畑篤子、福本明日香 オブザーバー 上羽和幸 議長、肝付隆治 副議長

内 容

【全体概要】

多様な視点から御意見をいただくため、次のような方々に御参加いただくこととし、事前に舞鶴市の人口ビジョンや移住定住施策に関する資料を送付することにより、一定の御理解をいただいた上で、当日に臨んでいただいた。

- (1) 移住者 … 実体験を通じた意見
- (2) 移住・定住事業関係者 … 移住希望者と接する人の意見
- (3) 自治会長等 … 移住者を受け入れる側の意見
- (4) 高専・ポリテクの学生 … 一時的に舞鶴に居住する若者の意見
- (5) 公募市民 … 人口減少や移住定住に興味を持つ人の意見

当日は、人口減少について、舞鶴市の現状を踏まえて、「どこに問題があるのか」「どうすれば減少を抑えることができるか」などについて意見交換を行った上で、その対策の1つとして考えられる「移住・定住」や、参加者が思う対策に関して、「市民・事業者・行政ができること」などを検討した。

各グループの意見交換の内容は、以下のとおり。

**1班** 担当議員：尾関善之 グループの人数：5人（議員含む）

《人口減少に係る課題や対策の意見》

舞鶴工業高等専門学校があるが、多くは市外へ就職をしており、学生の希望する働く場が少ない。また、若い世代からは、交通の便が悪い、遊ぶ場が少ない、物価が高く、子育てがしづらいなど多くの課題の意見があった。

対策の意見としては、子育て世帯の交流の場、買い物をする場合に、ワクワク感のあるようなショッピングモール、学



生と大人の世代間交流など、イベント等を通して舞鶴の良いところを発見するなどのイベントの実施などが大切であるとのことであった。

#### 《移住定住に関する課題や対策の意見》

職種にこだわらずとも高収入が得られる仕事、給料の高い会社が舞鶴には少ない。仕事の選択肢についても少ない。

また、移住・定住の募集要項の中で、できる限り働く世代に絞って募集することも財政上は大切なことではないかなど、収入面での課題が多く出された。

移住者の意見としては、住んで慣れてくると、一定の収入さえあれば、舞鶴で得られないものは、車や電車で1~2時間ほどで、京都、大阪、神戸に行ける距離でもあり満足しているとの意見もあった。

対策としては、大手企業と舞鶴高専のタイアップ等による起業に対する補助金制度の確立、働く場の仕組みづくり、他の街との差別化、「何もない舞鶴」から「何かあるまち」へのイノベーション、空き家を活用した農林業の振興、安い賃貸物件等を活用した事業化の推進などの意見があった。

#### 《市民・事業者・行政ができることに関する意見》

- ・ 市民の立場として、親世代が、子供に対して舞鶴には何もないと言うのではなく、舞鶴の「良いところ探し」など、積極的で前向きな取組が必要。
- ・ 事業者として、厳しい意見ではあるが、給与水準の引き上げ、福利厚生など、生活面での安定化の支援が必要。
- ・ 行政に対しては、結婚、子育てに対する経済的な支援、交通の利便性の向上など、たくさんの意見、要望があった。

**2班** 担当議員：小西洋一 グループの人数：5人（議員含む）

#### 《人口減少に係る課題や対策の意見》

本市は仕事の種類が少ない、職の幅がない、魅力的な職場がない、ベンチャー企業が少ないなどの課題があり、若者が都会へ流れる傾向が強い。

そのため、稼ぐことのできる仕事、夢のある仕事の間をつくり、多様な将来の選択肢を大人が示すことが必要である。

また、キャリア教育を早期化し、多様な職業体験や先進的な技術を学べる場をつくることなどにより、若者のUIJターンを促すことが求められる。



#### 《移住定住に関する課題や対策の意見》

全国的な傾向でもあるが、本市でも結婚する人が少なくなっている。生まれる子どもが少ないなど子育て環境も厳しい状況が認められる。

そのため、若い人たちの居場所(コミュニティ)や暮らしに便利な施設、多様

なイベントの提供など舞鶴ならではの住みやすい環境をつくり、移住・定住の促進が必要である。

### 《市民・事業者・行政ができることに関する意見》

#### [市民]

- ・ 市民全員が舞鶴の今の職や暮らしを改めて知ることが必要。
- ・ 地域の受け入れ態勢を整備し、地域行事に積極的に参加したり、地域コミュニティに溶け込もうとしたりしやすい環境を整備する。
- ・ 地域コミュニティだけでなく、青年や女性、子育て世代など各年代が交流できる多様な居場所(コミュニティ)を整える。

#### [事業者]

- ・ 飲食店と連携して合同コンパ、婚活パーティなどの促進が必要。
- ・ 医療を安定させ医療系の移住・定住者にターゲットを絞ることも必要。
- ・ 地元企業が「人材育成」のために地元の若者に多様な啓もう・啓発を行う。

#### [行政]

- ・ 暮らしの体験、お試し住み込み期間などの体験行事を行う。
- ・ 舞鶴のものづくりの技術を継承していくためにも IT リテラシー、理科教育を促進する。
- ・ ベンチャー企業の誘致と支援で若者に多様な働く場を保証する。
- ・ 「暮らしやすさ」「生きやすさ」をベースにした行政施策を実施する。

**3班** 担当議員：仲井玲子 グループの人数：5人（議員含む）

### 《人口減少に係る課題や対策の意見》

- ・ 子育てにお金がかかるので希望する人数を産み育てようと思えない。  
→ 十分な子育て支援を
- ・ 大学がないので、高校を卒業すると地元を離れる人が多い。そして、そのまま市外で仕事を見つける。  
→ 大学の誘致
- ・ 企業の数も少ないので、就きたい仕事を舞鶴で探すのが難しい。  
→ 企業誘致



### 《移住定住に関する課題や対策の意見》

- ・ 働く場所がない。漁業、林業、農業などを昔ながらのやり方でやるのはできないが、そこに IT 技術を入れる仕事ならやりたい。  
→ IT 企業の誘致をしてほしい。もしくは起業の支援を。起業も 1 人でやるのはハードルが高いので、プラットフォームが作れる仕組みづくりがあればいい。

田舎こそIT技術の導入が必要であり、そのための人材として求められるのであれば、やる気と生きがいを持って地域課題解決の仕事に取り組みたい。

・ 遊ぶ場所がない。

→ ラウンドワンやスタバなどがあればいいが、せっかく海に近いところなのでワンコインくらいで気軽に海のレジャーができるといい。田舎ならではの楽しみができるなら、むしろ子育ては田舎でしたい。

地域でれんげ畑を作って幼稚園児に解放する計画がある。

(若者が遊びに来ることでゴミなどの問題があると心配はないかと質問)

マナーが悪いのは若者に限ったことではない、高齢者にもマナーの悪い人はいる、それぞれの人間性の問題である。

#### 《市民・事業者・行政ができることに関する意見》

[市民]

参加者の自治会長さんが計画されているように、れんげ畑を作って解放すると子供たちが田んぼの中に入って遊ぶことができる。現在では田んぼや畑も人の土地であるから勝手に中に入って遊ぶことができない。地域の人が休耕地を遊び場として解放してくれるなら子育て世代には魅力ある環境となる。

[事業者]

スマート農業や山・川の見張りなどへのIT技術の導入は、今後、高齢化が進み、生産年齢人口が減少する地方においては、是非とも取り入れたいものであることから、高専やポリテクカレッジでIT技術を学んでいる学生さんの活躍の場を積極的に創出してほしい。

[行政]

子育て支援の更なる充実で、子どもを産み育てる不安の解消をしてほしい。

技術者が起業することはハードルが高いので、技術者同士を集めるプラットフォームづくりをしてほしい。

#### 4班 担当議員：松田弘幸 グループの人数：5人（議員含む）

##### 《人口減少に係る課題や対策の意見》

- ・ 大学を作る（大学誘致）。
- ・ 楽しめる場所づくり（遊び場、イオンモール等）。
- ・ 舞鶴市の良いところの発見、活用をする。
- ・ 仕事がない。
- ・ 東西の隔たりがある。
- ・ シャッター街をなくす。





### 《移住定住に関する課題や対策の意見》

- ・ 交通の便が悪い（小浜線、空港をつくる）。
- ・ リモートワーク、ワーケーションを促進する。
- ・ 暮らしやすさを目指した市政とIT企業の協力。
- ・ 移住者からアピールポイントを聞く（子育てがしやすい等）。
- ・ 空家バンクの活用。
- ・ キャンプ場をつくり、実際に舞鶴の良さを感じていただく。
- ・ キャンペーンをする。
- ・ SNSを活用して舞鶴の良さを知っていただく（一目で街の情報が分かる）。
- ・ デジタルサイネージを使う（大きなサイネージ）。

### 《市民・事業者・行政ができることに関する意見》

- ・ 交通の便が悪い（小浜線、空港をつくる）。
- ・ リモートワーク、ワーケーションを促進する。
- ・ 暮らしやすさを目指した市政とIT企業の協力。
- ・ 移住者からアピールポイントを聞く（子育てがしやすい等）。
- ・ 空家バンクの活用。
- ・ キャンプ場をつくり、実際に舞鶴の良さを感じていただく。
- ・ キャンペーンをする。
- ・ SNSを活用して舞鶴の良さを知っていただく（一目で街の情報が分かる）。
- ・ デジタルサイネージを使う（大きなサイネージ）。

**5班** 担当議員：山本治兵衛 グループの人数：6人（議員含む）

### 《人口減少に係る課題や対策の意見》

- ・ まちの魅力を上げること。
  - 電線の地中化など、景観の向上。
- ・ あれもこれもない。
  - 大学、大企業、外食チェーン、大型ショッピング、遊ぶところ。
- ・ 情報の発信力強化。
  - PR者を増やす。一般受けしやすいPRやコミッション。
- ・ 子育て支援の強化。
  - 女性が増えないと人口は増えない。
    - 一人住まいの良い市営住宅で20～30代の女性が住居しやすい環境づくり。
- ・ 住みやすさの実現。
  - 東西縦貫路線の整備。



### 《移住定住に関する課題や対策の意見》

- ・ 移住と雇用はセット。
  - 高額所得者ばかりではない。定期的なジョブマッチング事業の開催。仕事のPR。京阪神地区から近いというイメージ戦略と情報発信。
- ・ 車が移動手段であるにもかかわらず、取得に関する手当がない。
  - 免許取得助成、自家用車保有助成、公共交通の強化。車社会のインフラ整備。

### 《市民・事業者・行政ができることに関する意見》

人口増に関して、取り得る対策は様々であるが、結局、どの政策や対策も一巡してくる。継続的な取組が重要。

### 【今後の予定】

出された意見をもとに調査研究を進め、「市民」「事業者」「行政」として何ができるかを整理して、市への提言を目指す。

